

第10回 ニオイ・音・光の忌避効果は怪しい

農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 堂山宗一郎氏

ニオイや音、光は手間が掛からず効果があるのではないかと聞いた相談をよくされます。結論を先に言いますと、ニオイや音、光を使った忌避材や装置をイノシシやシカが嫌うことはありません。

私たちの研究グループでは、忌避効果があるとされているニオイや光、音をイノシシやシカに提示する試験をたくさん行ってきましたが、長期間逃げる、近づかなくなる物はありませんでした。流行りのピンクのテープも、1日～10日ほどでイノシシもシカもテープを無視して侵入するようになりました。天敵と言われるオオカミの尿は効果があるとして流行しています。もちろんオオカミ尿の試験も行いましたが、イノシシは嫌がるどころか尿を体に擦り付けたりしました。シカも一晩で尿を撒いた場所を無視して餌を食べるようになりました。今のところ、イノシシやシカが本質的に嫌がる物質はありません。

一方で、売られている忌避物質などを使

うと、イノシシやシカが来なくなったように感じる場合があります。毎日訪れていた農地に、突然いつもと違うニオイや物があると、その環境の変化に対して野生動物は、「何か危険なことが起こるかも」と考えて警戒します。しかし、農地で美味しい物を食べてきたイノシシやシカは、周囲から農地の様子を観察し続け、危険なことではないと判断すると再び侵入してきます。効果があったようでもそれは一時的な警戒であり、イノシシやシカは慣れてしまうと思っよいでしょう。

